

第21話「あれを使えば！」

課題	お祭り会場のセッティングをうまく説明できない
ストラテジー	図を使って説明する
効果	・説明が理解しやすくなる ・説明する負担が小さくなる

<課題>

お祭り会場のセッティングをうまく説明できない



スアンはお祭りの設営係として、ダニー、小野、仙庭といっしょに会場のセッティングをすることになりました。しかし、セッティングについて質問を受けたスアンは、うまく説明することができず、困ってしまいました。

<ストラテジー使用場面>



スアン: 図にすると、こんな感じです。

じゃ、説明しますね。

観客席は椅子を8つずつ、5列です。

小野: ステージは?

スアン: ステージはテーブルがこっちに1つ、こっちに2つです。

仙庭: なるほどね。そっちに1つなんだね。

スアン: 右のテーブルには景品を置いてください。

左は椅子もいります。

小野: これなら俺にもよーくわかる。

<スアンが使ったストラテジー>

図を使って説明する



スアンは、机や椅子などの配置のしかたを整理して図に描いて、その図を使いながら説明しました。その結果、ダニーたちは会場の設営の内容を正しく理解することができました。

<どんなストラテジー？>

今回のストラテジーは、ものの位置や場所の説明など、ことばだけでは伝えるのが難しいことを説明するときに役に立つストラテジーです。

このストラテジーを使うと、聞いている人は、図で配置を確認しながら説明を聞くことができるので、理解しやすくなります。言葉だけの説明だと、ドラマの中のダニーたちのように「左」と「右」がわからなくなったり、いすや机の数を正しく覚えられないかもしれません。図があると、数や位置を図で確認できるので、負担が減ります。

また、このストラテジーは、話す人にとって、説明がしやすくなるという利点があります。もし図を使わないで説明しようとする、「客席から見てステージの右に机を1つ、左に机を2つ」というように、日本語も複雑になってしまい、説明しているうちに混乱して間違ってしまう可能性があります。しかし、図を使うと、図を指さしながら、「こっちに1つ、こっちに2つ」というように、シンプルに説明できます。

<どうやって使う？>

物の位置や配置といった空間に関する情報は図にして情報を可視化(=「見える」ようにする)と、わかりやすくなります。例えば、ドラマのようにイベント会場の設営は、左や右といった位置や、ものの数など、間違えそうな要素がたくさんあるので、ことばだけで伝えるのは難しいでしょう。道を説明するときも、ことばだけで伝えるのは難しいですし、図(地図)もあったほうがわかりやすいですね。

また、今回のドラマのように、共同で作業をするときに図があると役に立ちます。チームの全員が同じ図を見ることで、正しい配置を確認しながら作業をすることができるので、人によって理解が違ふということが避けられます。

<もう一步> ビジュアルエイドの効果

今回のストラテジーは、説明するときに図を使うというものでした。このように、何かをするときに補助的に使用する図や表、イラスト、写真などの視覚的な情報を、「ビジュアルエイド(Visual aid)」と呼びます。私たちは言語を使ってコミュニケーションをしますが、ビジュアルエイドと一緒に使うことも多いです。例えば、プレゼンテーションをするときに使う図や表もビジュアルエイドです。言葉だけのプレゼンテーションよりも、情報が伝わりやすいです。

それから、美容院に行って、どんな髪型にしてほしいか伝えるときに使う写真もビジュアルエイドだと言えます。「前髪はあまり切らないで、横と後ろは短くして、色は明るめで・・・。」と説明するより、写真を見せて「こんなかんじでお願いします。」と言ったほうがわかりやすいですね。

他にも、1週間のスケジュールを伝えるとき、「月曜日と木曜日は空いていますが、火曜日と水曜日は空いていません。金曜日は午後なら空いています。」と言ったら、わかりにくくて誤解も起きそうです。でも、説明するときに次のような表があったら、誤解を防ぐことができそうです。

【ストラテジーの解説】#21

月	火	水	木	金
○	×	×	○	午前× 午後○

このように、ビジュアルエイドは情報をわかりやすく伝え、誤解を防ぐ重要な役割があります。どのような情報を伝えるときにどのようなビジュアルエイドを用いると効果的か、考えてみましょう。